

保存版

森 町

静岡県 森町

防災ガイドブック



災害から自分の
命を守る！



はじめに

日本は、「自然災害王国」と言われており、地震をはじめ、台風、洪水、土砂災害等のあらゆる自然災害がいつでも何処でも発生する危険があります。東海地震による大規模な被害発生が予測されてから30数年が経過する中、平成23年（2011年）3月11日の東日本大震災が発生しました。これを受け、国は太平洋側の南海トラフでの地震発生確率を計算し、「30年以内にマグニチュード8から9程度の大地震が発生する確率を70%程度」と発表しました。「災害は忘れた頃に来る」と言われていましたが、近年では、自然災害が頻繁に発生し、かつ大型化していると言えます。

このため、想定される災害発生の危険性とその対応方法について、「森町防災ガイドブック」を作成しました。本ガイドブックと「森町防災ハザードマップ」を参考に日頃からの災害対策にご活用下さい。

近年の災害による被害発生状況（全国統計）

災害発生年	地震・津波	風水害	火山	雪害	計
平成28年 (2016年)	4	8	2	2	16
平成27年 (2015年)	6	7	5	1	19
平成26年 (2014年)	4	10	2	8	24
平成25年 (2013年)	3	11	0	1	15
平成24年 (2012年)	0	7	0	1	8

出典：内閣府、防災情報より

ガイドブック利用について

「森町防災ガイドブック」及び「森町防災ハザードマップ」は、森町にて災害が想定される自然災害等についてまとめました。「森町防災ハザードマップ」で災害リスクを示し、「森町防災ガイドブック」でその対応などを詳しく説明しています。

町民の1人ひとりが、災害の危険性を認識し、「災害は必ず起こる」という意識のもと、「いざというとき」に備え、「自らの命を自らが守る」行動がとれるよう、「森町防災ガイドブック」及び「森町防災ハザードマップ」を活用して、ご家族や地域で話し合いをしてみましょう。

「森町防災ガイドブック」

- ・どのような災害が発生するのか
- ・災害における事前対策
- ・災害時での安全な避難方法
- ・災害時での助け合い
- ・災害情報の収集方法 等

「森町防災ハザードマップ」

- ・災害時の避難所
- ・土砂災害危険箇所、洪水における浸水箇所
- ・地震の揺れ、液状化の可能性場所 等

地震編

想定される地震（規模、被害想定、災害履歴）	3
地震の揺れと被害状況（震度別での被害状況）	5
地震が来る前の準備（わが家の安全対策）	6
地震時の行動（地震発生時の行動）	7
地震発生時の行動チャート（地震発生から1週間の行動）	8
液状化現象（液状化の特徴）	9
液状化の可能性マップ	10

風水害編

風水害から身を守る（雨の強さ、風の強さ、台風の大きさと強さ、台風前の準備）等	11
洪水予報と求める行動	13
避難のタイミングと心得	14
土砂災害（土砂災害の起こり方）	15
土砂災害（避難時の行動）	16
竜巻・暴風（竜巻の発生、情報発表のタイミング）	17
竜巻・暴風（暴風による災害、間近に迫った時の対応）	18

原子力災害編

原子力災害とは	19
原子力災害から身を守る	20

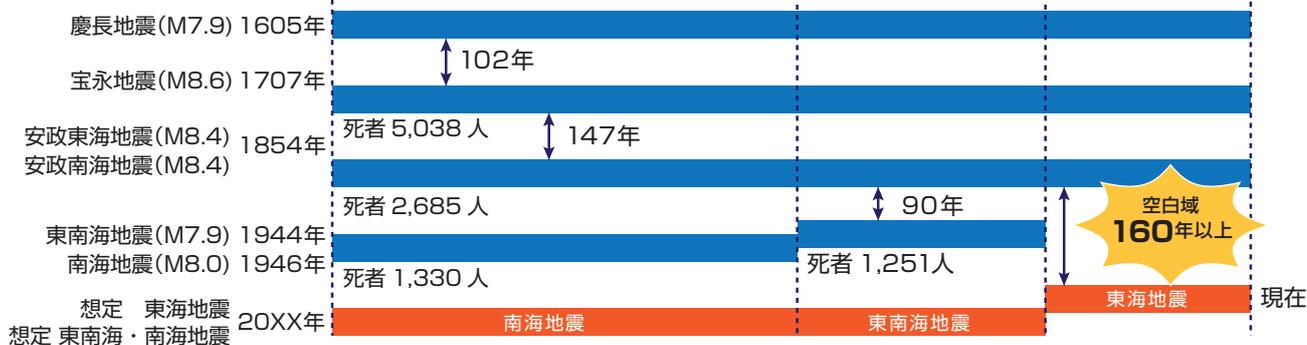
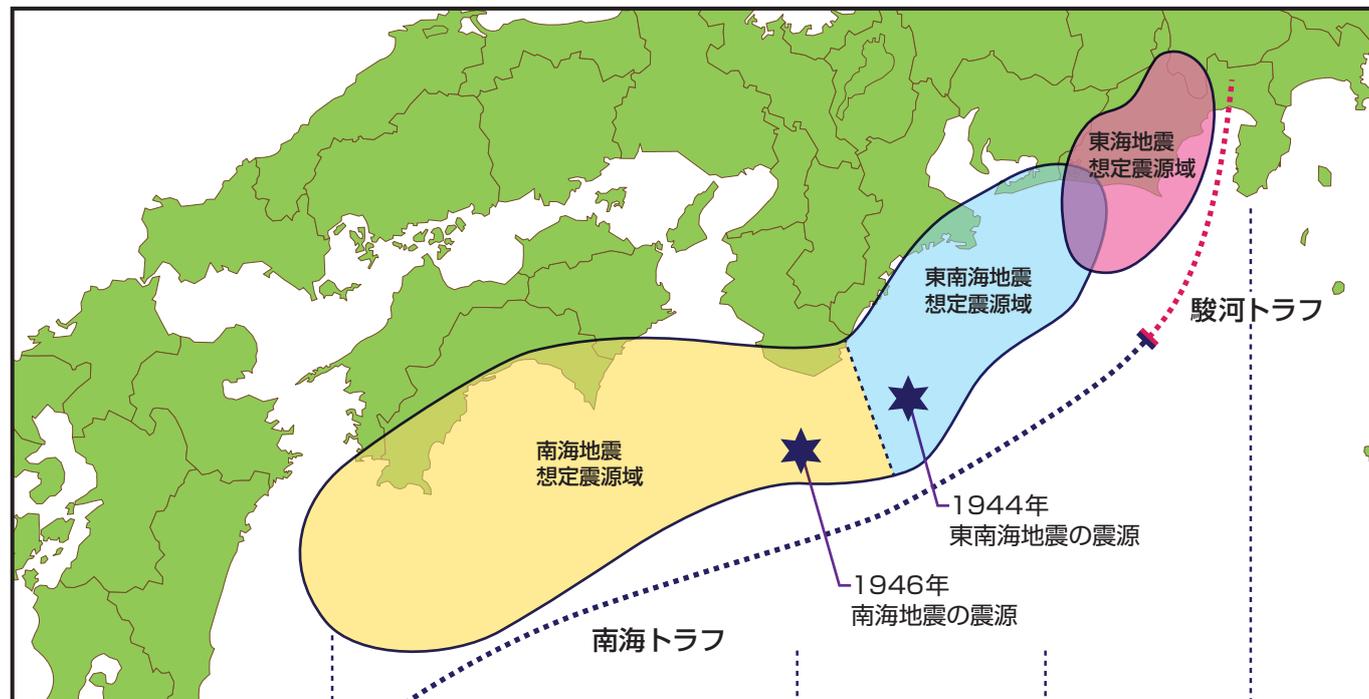
自主防災編

災害時の助け合い（自助・共助・公助）	21
災害時の助け合い（応急手当方法）	22
要配慮者（避難行動要支援者）の手助け	23
森町指定避難所（指定避難所一覧表）	24
災害時の連絡・避難（災害用伝言ダイヤル171、伝言板Web171）	25
情報の収集（気象情報、災害情報、避難情報）	26
非常時持ち出し一覧表	27
緊急連絡カード	28
わが家の防災メモ	30

地震：想定される地震（規模、被害想定、災害履歴）

静岡県は有史以来たびたび地震、津波による災害に見舞われています。駿河湾から遠州灘にかけての海域には海洋プレートの境界を成す駿河トラフや南海トラフが存在し、巨大地震を繰り返し発生させてきました。近年では、平成23年（2011年）3月に東日本大震災、平成28年（2016年）4月に熊本地震が発生し、地震による揺れや津波により甚大な被害が発生しました。この教訓を生かし静岡県は「静岡県第4次地震被害想定（平成25年〔2013年〕6月）」として、想定される地震及び被害を以下のとおり公表しました。

過去の地震と想定震源域



出典：気象庁HPより

想定される地震規模

区分	レベル1	レベル2
想定される地震・津波	東海地震、東海・東南海地震 東海・東南海・南海地震 宝永型地震、安政東海型地震 5地震総合モデル	南海トラフ巨大地震 (内閣府2012)
地震規模	マグニチュード8.0～8.7	マグニチュード9程度
地震の発生頻度	駿河・南海トラフでは100年～150年に1回程度発生すれば大きな被害をもたらす地震。	発生頻度は極めて低い。発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。

※静岡県第4次地震被害想定より

地震：想定される地震（規模、被害想定、災害履歴）

森町の被害想定「建物・人的被害想定結果」

森町では、以下の2ケースによる被害想定結果を使用しています。

区分	ケース	想定される地震
レベル1	基本ケース	駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波（東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震等）
レベル2	陸側ケース	駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル2の地震・津波（南海トラフ巨大地震）

地震動		レベル1	レベル2
建築物等被害	全壊・焼失(被害率)	約2,300棟(21.1%)	約4,100棟(37.6%)
	半壊(被害率)	約2,400棟(22.0%)	約2,400棟(22.0%)
人的被害	死者数	約40人	約100人
	重軽傷者数	約900人	約1,300人
自力脱出困難者及び要救助者数		約100人	約300人

試算ケース：予知なし、冬・夕、早期避難率が低い場合とする。

出典：森町地域防災計画より

建築物等被害：建築物対象総戸数10,918棟とする。

※「静岡県第4次地震被害想定」の詳細情報は、静岡県のホームページ（HP）より確認して下さい。

森町の災害履歴

近年、森町で起こった大規模災害履歴を記載します。参考にして下さい。

災害	西暦	和暦	被害状況
台風	1959年	昭和34年9月	台風15号（伊勢湾台風） 三倉地区：家屋の全半壊多数。 周智トンネルなど各所で道路寸断。
豪雨	1962年	昭和37年9月	大河内で1時間雨量119mmを記録。 土砂崩れ、浸水により家屋に被害。
台風	1974年	昭和49年7月	台風8号（七夕豪雨） 集中豪雨により、死者1人、負傷者5人、全壊1戸、 半壊2戸、流出9戸、田畑、道路決壊、堤防等多数の被害。
地震	2009年	平成21年8月	駿河湾を震源とする地震。 初めて東海地震観測情報が発令。 東海地震の切迫性が一段と進んだ可能性があると指摘。

地域の特徴

地形概況 (静岡県HPより)	北部は三倉川・吉川流域のせまい谷底低地と崖錐が形成され、田能から中野の広い山腹緩斜面は滑落崖をもつ地すべり地である。南部は太田川にそう三角州性低地や自然堤防からなり、山地と低地の間には一宮川沿いに丘陵が発達する。
防災上の留意点 (静岡県HPより)	平坦地は含水性の高い軟弱な地盤であり、地震時の振動が増幅される性質があるので、家屋の倒壊や出火による延焼火災には十分注意が必要である。傾斜地は脆弱な地盤であるので、地形を変えると崩壊が促進されやすいので注意を要する。

はじめに

地震編

風水害編

原子力災害編

自主防災編

地震：地震の揺れと被害状況（震度別での被害状況）

静岡県第4次地震被害想定による森町の揺れは、震度6強以上と想定されています。森町防災ハザードマップにも掲載してあります。震度から人の体感や建物の状況を把握しておきましょう。

人の体感・行動、屋内の状況、屋外の状況

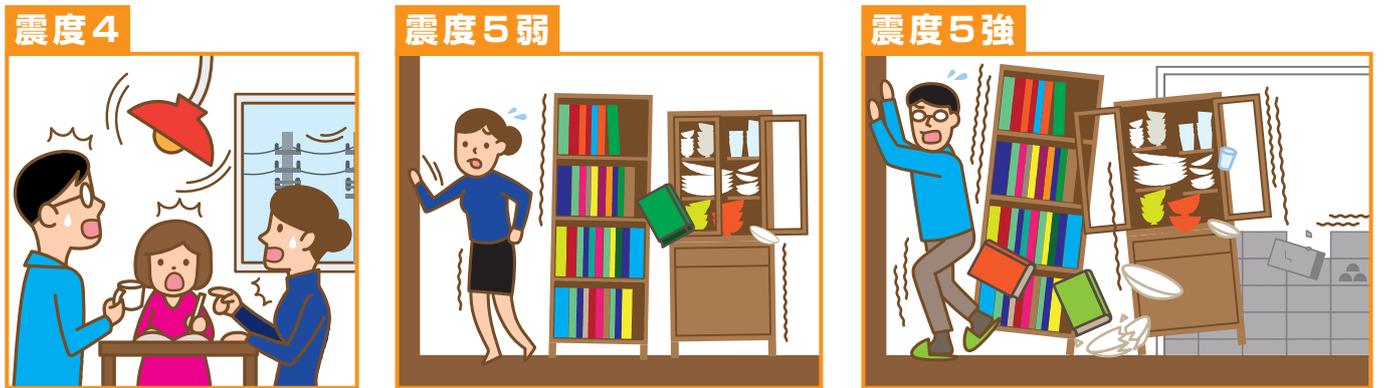


震度0
人は揺れを感じない。

震度1
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

震度2
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

震度3
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。



震度4
・ほとんどの人が驚く。
・電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
・座りの悪い置物が倒れることがある。

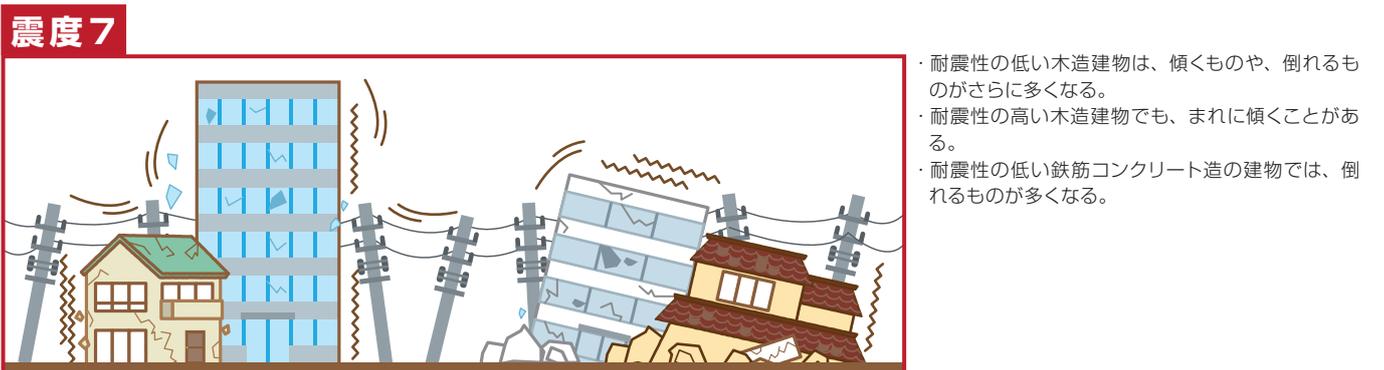
震度5弱
・大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
・棚にある食器類や本が落ちることがある。
・固定していない家具が移動することがあり、不安定なもの倒れることがある。

震度5強
・物につかまらないう歩くことが難しい。
・棚にある食器類や本が落ちることが多くなる。
・固定していない家具が倒れることがある。
・補強されていないブロッグ塀が崩れることがある。



震度6弱
・立っていることが困難になる。
・固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
・ドアが開かなくなることがある。
・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
・耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れる物もある。

震度6強
・はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
・耐震性の低い木造建物は、傾く物や、倒れるものが多くなる。
・大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度7
・耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
・耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
・耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

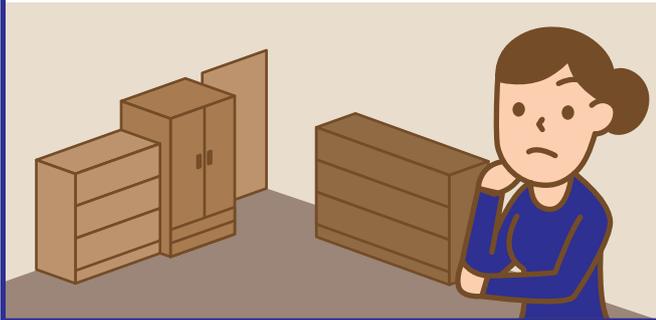
地震：地震が来る前の準備（わが家の安全対策）

地震が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。地震による被害の多くは、家具の転倒、落下によるものです。地震に備え、わが家の安全対策をしておくとともに、家の外の安全対策もおきましょう。

わが家の安全対策

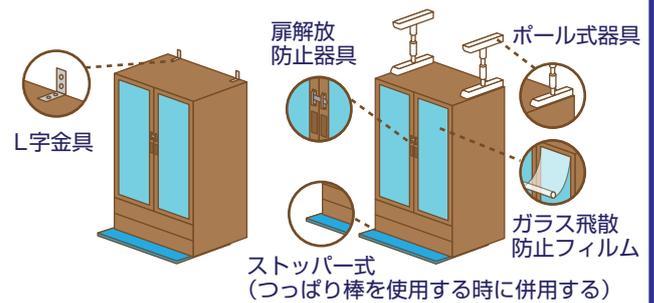
家具の配置を考える

「家具は必ず倒れるもの」と考えて、防災対策を講じておく必要があります。家の中で逃げられる場所を確保しておきましょう。



家具に転倒、落下防止の措置をとる

家具は転倒したりしないように固定するなどの対策をしましょう。家具の他、窓ガラス、照明、テレビ、レンジ、冷蔵庫等も落下防止対策を行ないましょう。



通路や出入り口に荷物を置かない

安全に避難するために、家具などにより、出入口をふさいだりしないように、家具の向きや配置を工夫しましょう。



寝室には倒れそうな家具を置かない

できるだけ家具を置かないようにし、家具を置く場合はなるべく背の低い家具にし、転倒防止対策をとりましょう。



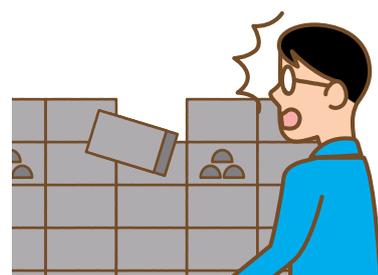
住宅の耐震化

プロジェクト「TOUKAI-0」総合支援事業により木造住宅の耐震化を促進しています。



ブロック塀の改善事業

地震によるブロック塀の倒壊により、怪我や避難経路がふさがれる場合があります。安全な生垣や塀に改修しましょう。



手の届くところに、携帯電話、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておきましょう。

地震：地震時の行動（地震発生時の行動）

大きな地震が起きたり、緊急地震速報があったら、最優先に自分の身を守る行動をしましょう。地震発生直後は、あわてないで冷静に行動しましょう。

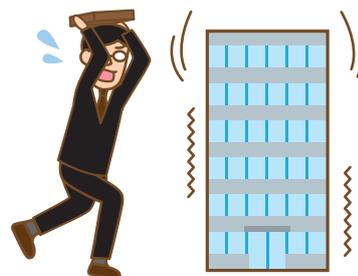
屋内にいるとき

- ・まず、自分の身を守る。
- ・頑丈なテーブルの下に入る。なければ大きな家具の隣でうずくまる。
- ・家具やガラス面から離れる。
- ・頭を保護する。
- ・揺れが収まったら屋内でも靴を履く。



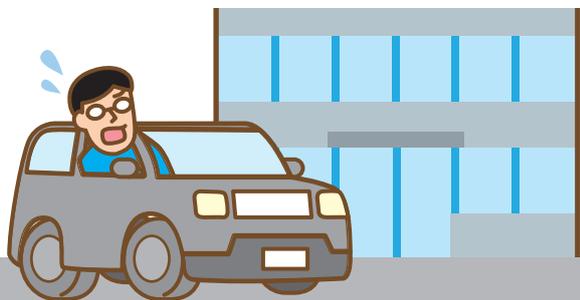
徒歩のとき

- ・落下物から頭を守るために、靴や服で頭を覆う。
- ・揺れが収まるまで、うずくまる。
- ・看板、電柱、自動販売機等の施設から離れる。
- ・ブロック塀等障害がある場所から遠ざかる。
- ・近くの丈夫なビルや広場に避難する。



運転中のとき

- ・道路端の安全な場所にゆっくり停止し、エンジンを止める。
- ・ラジオで災害情報を確認する。
- ・避難が必要な時は、鍵をつけたまま離れる。
- ・メモを残す。



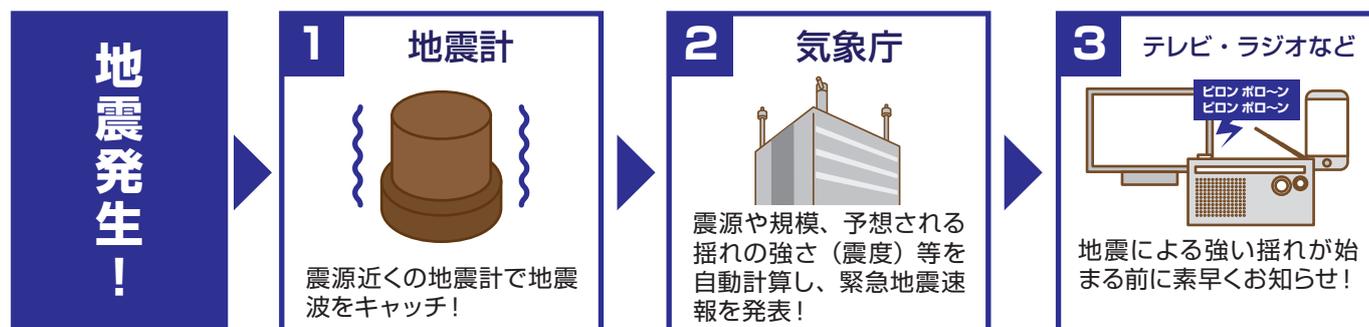
駅やホームにいるとき

- ・屋根、表示板、照明器具、モニターなど多くの落下物があることが想定され、靴や服で頭を覆う。
- ・電車が来る可能性があり、線路に降りる事は非常に危険です。
- ・地震の揺れが収まったら係員の指示に従って避難する。



緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。



緊急地震速報（警報）を発表する条件

- ・地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予想された場合に発表。
- ・予報は、最大震度3以上と予想されたときに発表。

※震源に近い場所への速報が間に合わないことがあります。

出典：気象庁HPより

地震：地震発生時の行動チャート(地震発生から1週間の行動)

地震発生時には、経過する時間ごとにすべきことが変わっていきます。基本的な行動の流れを覚えておきましょう。

はじめに

地震編

風水害編

原子力災害編

自主防災編

地震発生

(地震発生直後～3分程度)



まず、自分の身を守る。

- ・頑丈なテーブルの下に入る。なければ大きな家具の隣でうずくまる。
- ・家具やガラス面から離れる。
- ・頭を保護する。
- ・揺れが収まったら屋内でも靴を履く。

安全確認

(地震発生直後～5分程度)



火元の確認をする。

- ・出火していたら初期消火する。

家族の安否確認をする。

余裕があれば水を貯めておく。
(生活用水)

- ・断水していれば、蛇口は開けない。

避難準備

(地震発生直後～10分程度)



避難可能な脱出口を確保する。

- ・ガラス片や転倒した家具に注意する。

非常時持ち出し品を手近に用意する。

ガスの元栓、ブレーカーを落とす。

- ・被災していれば、避難所へ避難する。

安否確認(メモを残す)

情報収集・確認

(地震発生から半日程度)



身内や親戚の安否確認をする。

- ・災害用伝言ダイヤル等を利用する。

災害情報、避難情報を入手する。

近所の安否確認をする。

- ・要配慮者(避難行動要支援者)や近隣住民の救出、救護、支援にあたる。

避難行動

(地震発生から3日程度)



ライフライン(水道、電気など)が遮断しても数日間は非常持出品等でしのげるようにする。

被害情報の収集をする。

壊れた建物へは安全が確認されるまで出入りしない。

避難生活、復旧活動開始

(地震発生から3日以降)



行政機関、住民、ボランティアとの協力により、生活再建、復旧開始。

集団生活によるルールを遵守する。

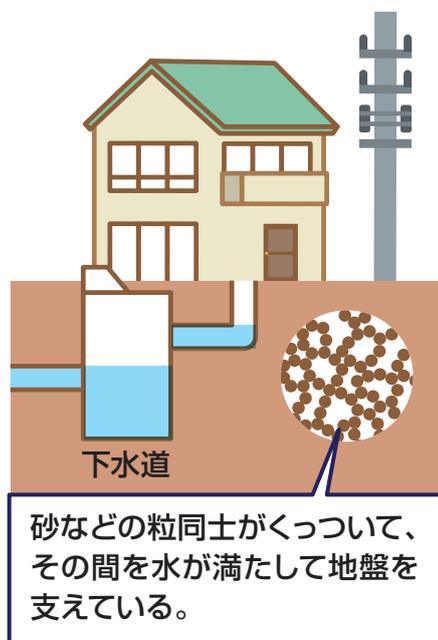
在宅避難 → 町内会と連携する。

余震に注意する。

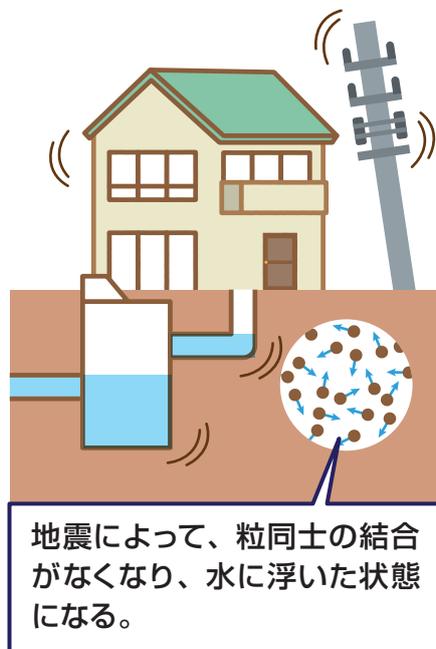
地震：液状化現象（液状化の特徴）

液状化現象は、地震等により地面が強く揺らされると地面が液体のような現象です。水を多く含んだ砂の地盤や埋立地などで起こる可能性があります。液状化現象が起こると、地面から砂が吹き上がったたり、地盤沈下により、地中の埋設物やマンホールが浮き上がったります。また、建築物などに、とても大きな被害がでることもあります。

地震前の地盤



地震後の地盤（液状化中）



地震後の地盤（液状化後）



「森町防災ハザードマップ」及び「森町防災ガイドブック」では、「液状化の可能性」がある範囲を以下の4段階に区分して示しています。

お住まいの地区において、どの程度の範囲で液状化が起こるか確認しておいて下さい。

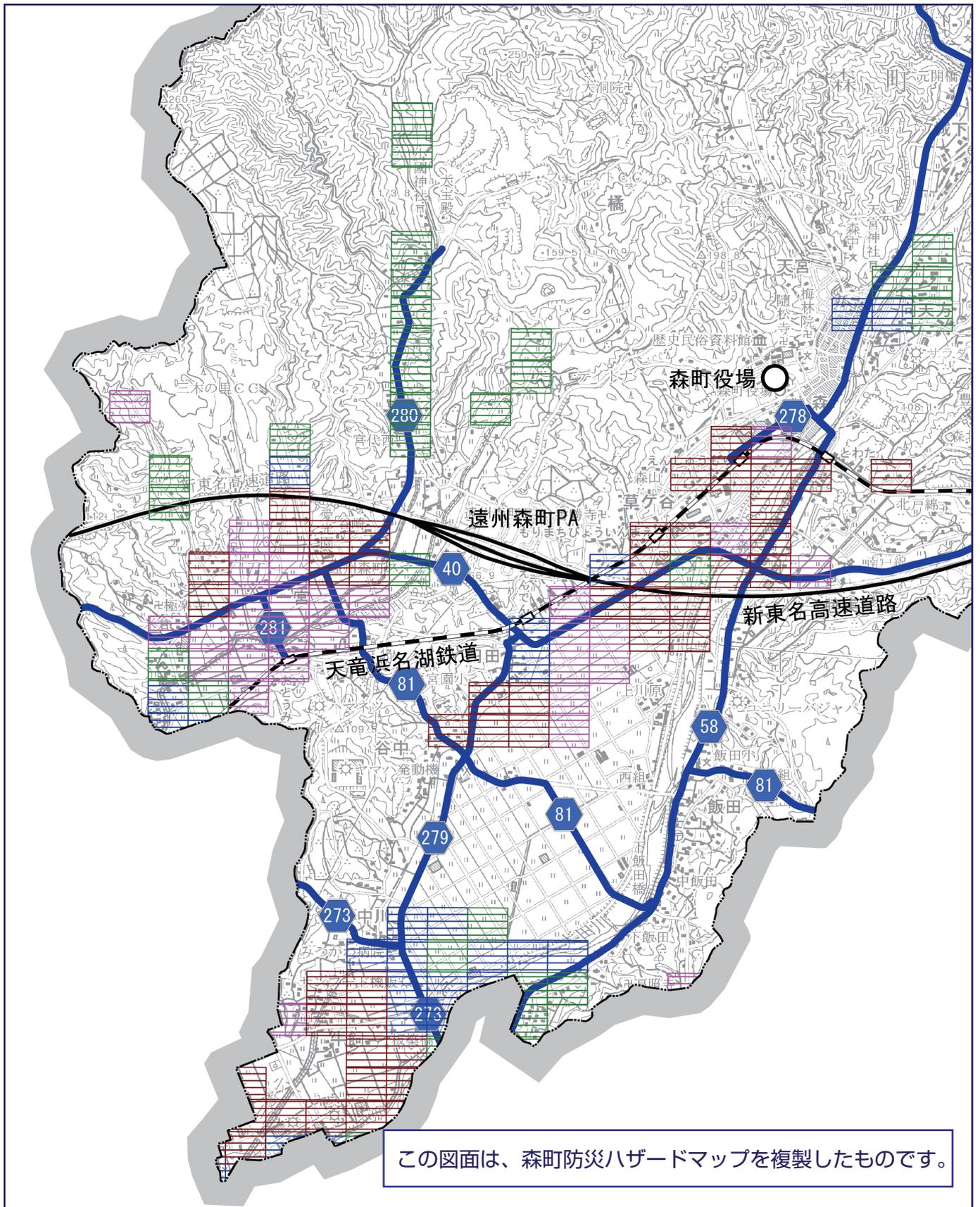
液状化の可能性	液状化危険度（PL値）	液状化の程度
大	15.0以上	液状化発生の可能性が高い。
中	5.0以上15.0未満	液状化発生の可能性がある。
小	0以上5.0未満	液状化発生の可能性が低い。
なし	PL=0	液状化発生の可能性が極めて低い。
対象外	対象となる地層がない	—

※PL値：地点の液状化の危険度を予測する時に指標とする値です。地上から深さ約20mまでの地盤の液状化のしやすさを表したものです。

注意！

液状化の可能性マップに示した範囲が全て液状化現象を起こすとは限りません。地震の規模や土地の状況により異なります。液状化発生の可能性が極めて低い土地や対象外の土地においても液状化現象が起こる可能性があります。

地震：液状化の可能性マップ



この液状化の可能性マップは、静岡県が作成した第4次地震被害想定より、地域で一番大きな影響がある南海トラフ巨大地震（レベル2）のデータを用いて作成してあります。

はじめに

地震編

風水害編

原子力災害編

自主防災編

風水害：風水害から身を守る (雨の強さ、風の強さ、台風の大きさと強さ、台風前の準備)等

台風は、毎年のように襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。台風が発生して日本に近づくと、各地の気象台等では台風に関する情報などを発表し、新聞やテレビ・ラジオが台風の動きを伝えます。それらの情報を有効に利用し、災害を防止・軽減しましょう。

雨の強さの目安

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に10～20mmの雨	1時間に20～30mmの雨	1時間に30～50mmの雨	1時間に50～80mmの雨	1時間に80mm以上の雨
				
ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じる。

「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想される時は、大雨注意報や大雨警報を発表して注意や警戒を呼びかけます。また、猛烈な雨を観測した場合、「記録的短時間大雨情報」が発表されることがあります。

風の強さの目安

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
10m/s以上 15m/s未満	15m/s以上 20m/s未満	20m/s以上 30m/s未満	30m/s以上
			
風に向かって歩きにくくなり傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物で負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険です。

通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

台風の大きさと強さ

「台風の強さ」

階級	最大風速
強い	33m/s (64 ノット) 以上～ 44m/s (85 ノット) 未満
非常に強い	44m/s (85 ノット) 以上～ 54m/s (105 ノット) 未満
猛烈な	54m/s (105 ノット) 以上

「台風の大きさ」

階級	風速 15m/s 以上の半径
大型 (大きい)	500km 以上～ 800km 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上



気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、上表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現しています。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

出典：気象庁HPより